

2011 年度木文化プロジェクト報告会

■日時：2012年3月7日（水）10：00～18：00

■場所：京都大学フィールド科学教育研究センター第一会議室（農学部総合館2階北東角・N283）

■参加者：30名 ※敬称略、順不同

京都大学フィールド科学教育研究センター：柴田昌三、吉岡崇仁、山下洋、長谷川尚史、中西麻美、向井宏、安佛かおり、平井岳志、境慎二郎、西岡裕平、藤井弘明、佐藤拓哉、松山周平、福島慶太郎、向昌宏、大川智船

京都大学農学部・農学研究科：笠井亮秀、渡辺謙太、舟橋達宏、秋山諭、鈴木健太郎、鈴木伸弥

京都大学理学部・理学研究科：中川光

元京都大学職員：二村一男

高知県環境研究センター：武市梨沙、山中律、樋口美和

高知県立森林技術センター：徳久潔、深田英久

総合地球環境学研究所：野瀬光弘

■内容：プロジェクト3年目の年度末報告会。前半は各リーダーによる進捗状況の報告と今後についての発表および討議を、後半は各分野からの研究成果発表を行った。また、総合討論において今後のプロジェクトについて意見交換を行った。

■プログラム ※敬称略。タイムスケジュールは実時間で記録。

【午前の部】 各リーダーによる報告と今後の展望

10:00～10:10 報告会開催にあたって

10:10～10:45 仁淀川プロジェクトの現状と今後

長谷川尚史（仁淀川プロジェクトリーダー、京都大学フィールド科学教育研究センター）

10:45～11:15 由良川プロジェクトの現状と今後

吉岡崇仁（由良川プロジェクトリーダー、京都大学フィールド科学教育研究センター）

【11:15～11:20 休憩】

11:20～12:10 木文化プロジェクトの現状と今後／討論

柴田昌三（プロジェクトリーダー、京都大学フィールド科学教育研究センター）

【12:00～13:10 昼食・休憩】

【午後の部】 研究成果報告 ※○印は発表者

13:10～13:40 仁淀川・河川調査

「仁淀川における河川水質の形成要因：森林伐採と土地利用の影響」

○福島慶太郎 1, 徳地直子 1, 竹本雅浩 2, 樋口美和 3, 武市梨沙 3, 山中律 3, 富田健介 3, 大森真貴子 3, 向昌宏 1

（1 京都大学フィールド科学教育研究センター 2 高知県仁淀川町 3 高知県環境研究センター）

13:40～14:10 仁淀川・水生昆虫調査

「仁淀川上流域における間伐実験の調査報告～付着藻類及び河川水クロロフィルと水生生物の推移～」
平成23年度

○武市梨沙・樋口美和（高知県環境研究センター 水質担当）

14:10～14:40 仁淀川・森林調査

「平成23年度 仁淀川森グループ調査報告」

○深田英久（高知県立森林技術センター），○中西麻美・（京都大学フィールド科学教育研究センター）

【14:40～14:55 休憩】

14:55～15:25 由良川・河川調査

「窒素と酸素の同位体組成を用いた由良川流域における硝酸塩の起源評価」

○鈴木伸弥 1, 吉岡崇仁 2, 福島慶太郎 2, 徳地直子 2, 福崎康司 3, 白澤絃明 3, 大槻あずさ 3

（1 京都大学農学部, 2 京都大学フィールド科学教育研究センター, 3 京都大学農学研究科）

15:25～15:55 由良川・海域調査

「丹後海の植物プランクトン現存量に由良川の流入が与える影響」

○渡辺謙太 1, 福崎康司 1, 上野正博 2, 笠井亮秀 1, 山下洋 2

（1 京都大学大学院農学研究科 2 京都大学フィールド科学教育センター）

15:55～16:25 由良川・海域調査

「数値実験を用いた由良川河口域の低次生産過程の再現とその考察」

○舟橋 達宏 1, 笠井 亮秀 1, 上野 正博 2, 山下 洋 2

（1 京都大学農学研究科 2 京都大学フィールド科学教育研究センター）

16:25～16:55 由良川・森林調査

「多雪地帯の不成績造林地における間伐実験～伐採前の毎木調査及び下層植生調査の結果～」

○松山周平 1, 石原正恵 1, 2, 福島慶太郎 1, 境慎二郎 1, 平井岳志 1, 藤井弘明 1, 浅野善和 1, 吉岡崇仁 1

（1 京都大学フィールド科学教育研究センター 2 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）

【16:55～17:10 休憩】

17:10～17:50 総合討論・来年度のプロジェクト

17:50～18:00 総括

19:00～ 懇親会

@町衆料理 京もん

総合討論の記録

午前の部、午後の部、共に総合討論の時間を設けた。

午前の部の討論では、主としてメンバー間の役割と情報の整理が行われ、今後のプロジェクトの方向性について若干の指針が見いだされた。また、震災後の人びとの意識の変化や時代の潮流の中でのプロジェクトの位置づけや、「実社会としての木文化社会」の創出等がキーワードとして挙げられた。

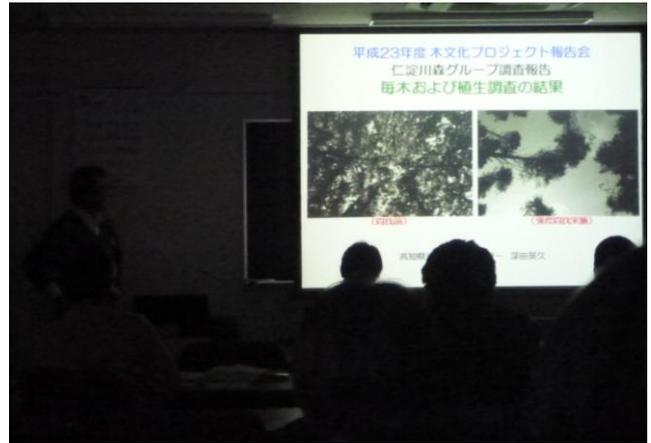
午後の討論では、より具体的に最終年度を見据えた意見交換を行った。特に「共有」がテーマとなり、由良川・仁淀川間あるいは調査地域内で、調査手法およびデータの擦り合わせが必要とされた。また、web 上でのデータ共有空間の整備が急務とされた。

午前、午後の討論を通して挙げられた具体的な提案事項は以下である。

- ・プロジェクト成果（各種データ等）の共有スペースの整備
- ・由良川流域の視察を兼ねた会議を企画（舞鶴、芦生等）
- ・照度計の購入
- ・2011 年度報告書について



午前の部：各リーダーによる報告と今後の展望



午後の部：研究成果報告